

定期巡回・随時対応型訪問介護看護及び複合型サービス  
に係る実態調査結果について

1 目的

一般の介護保険制度改正により新たに創設されたサービスの実態を把握し、その推進を図る基礎資料を得る。

2 期間

2013年（平成25年）11月1日～2013年（平成25年）11月30日

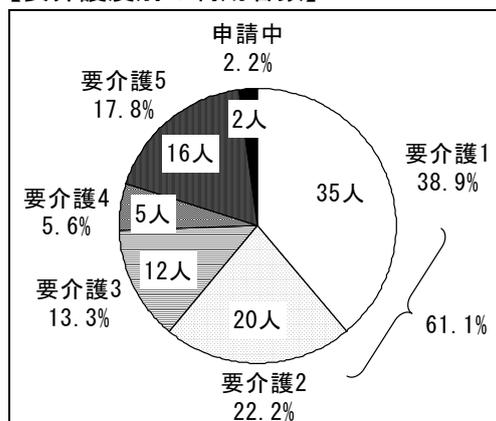
3 対象数及び回答数

区 分	対象数	回答数
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4事業所	4事業所
複合型サービス	4事業所	4事業所
合 計	8事業所	8事業所

4 定期巡回・随時対応型訪問介護看護について

(1) 利用者の状況

【要介護度別の利用者数】



- 利用者数合計： 90人
- 1事業所当たり：22.5人
- 平均要介護度： 2.4
- 比較的軽度である要介護1・2の利用者が多い（約6割）。

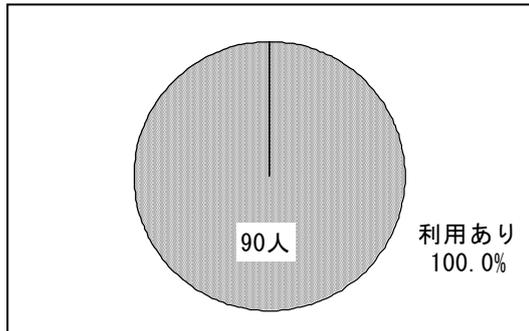
【世帯・住まい別の利用者数】

区 分	1人暮らし	高齢者のみ世帯	64歳以下の家族と同居	合 計
有料老人ホーム・高齢者向け住宅	69人 76.7%	2人 2.2%	0人 0.0%	71人 78.9%
上記以外	11人 12.2%	3人 3.3%	5人 5.6%	19人 21.1%
合 計	80人 88.9%	5人 5.6%	5人 5.6%	90人 100.0%

- 約9割が1人暮らし。その多くが有料老人ホーム・高齢者向け住宅に入居（全体の76.7%）
- 有料老人ホーム・高齢者向け住宅以外の者は約2割

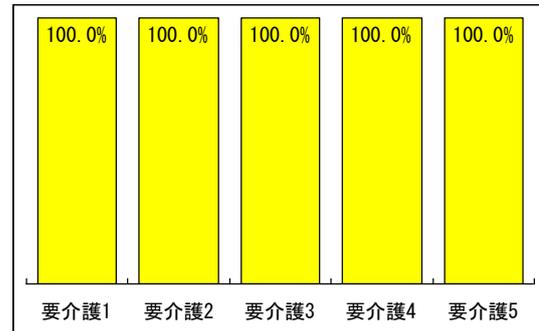
(2) 定期巡回サービスの状況

【利用の有無】



○ 全員が定期巡回サービスを利用

【介護度別の利用率】



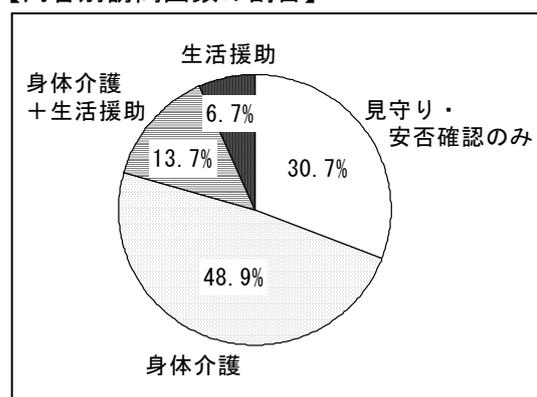
【1日当たりの定期巡回サービスの回数（1人当たり）】

区分	全体	有料老人ホーム・高齢者向け住宅	
		有料老人ホーム・ 高齢者向け住宅	左記以外
要介護1	2.0回	2.4回	1.0回
要介護2	3.3回	3.6回	1.6回
要介護3	3.1回	4.2回	1.0回
要介護4	5.0回	5.7回	2.0回
要介護5	5.6回	5.9回	1.0回
全体	3.2回	3.7回	1.1回

○ 要介護度が高くなるにつれて、訪問回数が増える傾向

○ 有料老人ホーム・高齢者向け住宅の入居者に対しては、3.7回と多いが、それ以外の者に対しては、1.1回と少ない（全体では3.2回）。

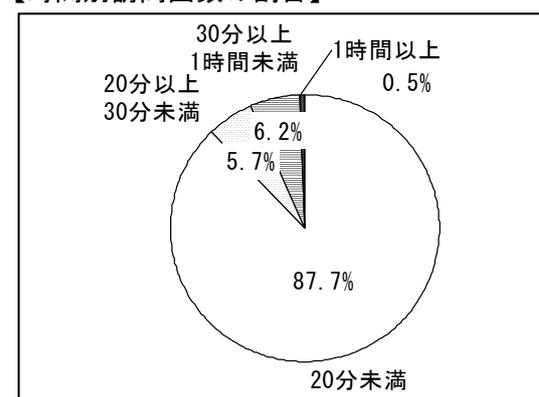
【内容別訪問回数の割合】



○ 内容別では、「身体介護」が約5割と最も多い。次いで「見守り・安否確認のみ」が約3割

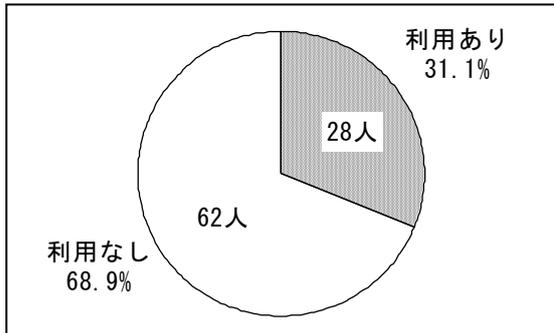
○ 時間別では、「20分未満」が約9割と大半を占める。

【時間別訪問回数の割合】

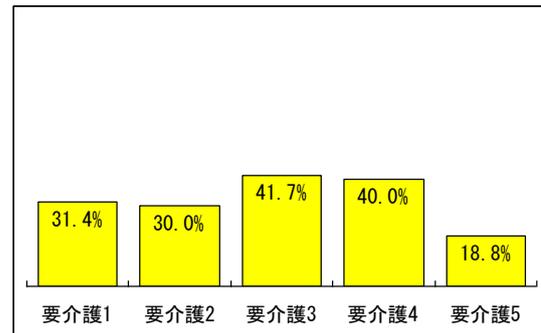


(3) 随時訪問サービスの状況

【利用の有無】



【介護度別の利用率】



- 約3割が随時訪問サービスを利用。利用していない者の方が多い。
- 要介護5では、約2割が利用し、その他の要介護度では、約3・4割が利用

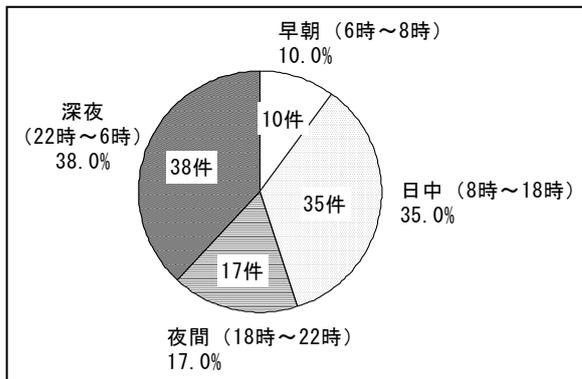
【1日当たりの随時訪問サービスの回数（1人当たり）】

区分	全体	有料老人ホーム・高齢者向け住宅	
		有料老人ホーム・高齢者向け住宅	左記以外
要介護1	0.2回	0.3回	0.0回
要介護2	0.2回	0.2回	0.0回
要介護3	0.9回	1.5回	0.0回
要介護4	2.1回	4.0回	0.2回
要介護5	0.8回	0.8回	-回
全体	0.5回	0.7回	0.1回

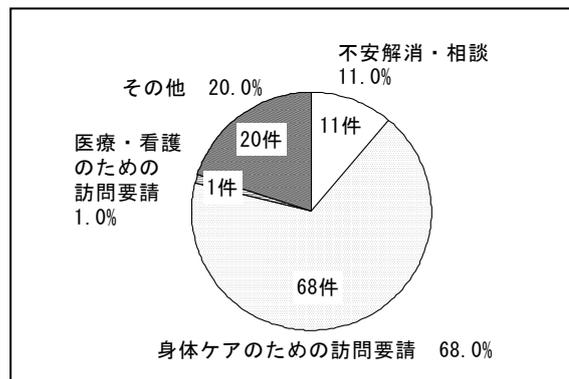
- 有料老人ホーム・高齢者向け住宅の入居者に対しては、0.7回であり、それ以外の者に対しても、0.1回と少ない（全体では0.5回）。

(4) 通報のあった時間帯, 内容及び対応

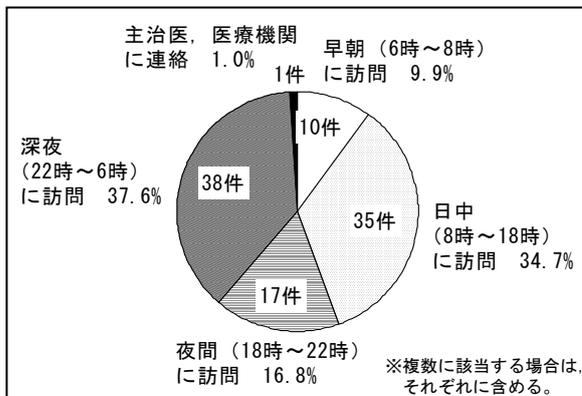
【通報のあった時間帯】



【通報の内容】



【通報への対応】

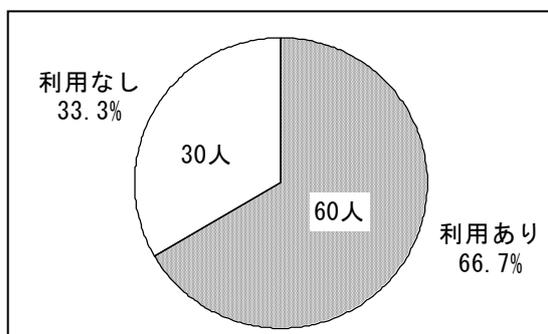


- 1週間で100件の通報
- 1事業所当たり：25件
- 最少事業所が0件, 最多事業所が97件と, 事業所によって異なる。  
〔4事業所のうち, 3事業所が2件以下と少ない。〕

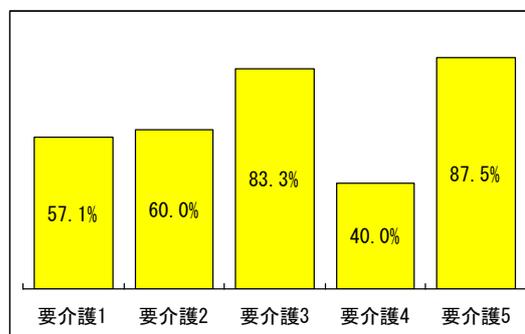
- 時間帯では, 「深夜」が38.0%と最も多い。
- 内容では, 「身体ケアのための訪問要請」が68.0%と最も多い。
- 通報に対して, 基本的には訪問で対応し, 「電話対応のみで解決した。」は該当なし。

(5) 訪問看護サービスの状況

【利用の有無】



【介護度別の利用率】



- 約7割が訪問看護サービスを利用。利用している者の方が多い。
- 要介護4を除き, 要介護度が高くなるにつれて, 利用率が高くなる傾向

【1日当たりの訪問看護サービスの回数（1人当たり）】

区分	全体	有料老人ホーム・高齢者向け住宅	
		有料老人ホーム・高齢者向け住宅	左記以外
要介護1	0.2回	0.2回	0.2回
要介護2	0.2回	0.2回	0.3回
要介護3	0.1回	0.2回	0.1回
要介護4	0.2回	0.2回	-回
要介護5	1.0回	1.0回	-回
全体	0.4回	0.4回	0.2回

○ 有料老人ホーム・高齢者向け住宅の入居者に対しては、0.4回であり、それ以外の者に対しても、0.2回と少ない（全体では0.4回）。

(6) サービスを導入し、利用者にとって特に効果があった事例

ア 軽・中度者の事例

年齢	70歳代	性別	男性	要介護度	2	認知症日常生活自立度	自立
世帯の状況	自宅に1人暮らし 隣の別棟に親族在住，遠方に兄妹在住						
サービス内容・頻度	掃除，洗濯，買い物…60分 週2回 朝の服薬確認…10分 週4回（通所介護のない日） 夕の服薬確認…15分 毎日						
サービス導入前の状況・課題	腰椎圧迫骨折にて約4か月間入院した。 体が思うように動かず，食事や掃除に困り，服薬がうまくできずパニックになるなど，精神的に不安定であった。 遠方の兄妹を頼るが，頻繁に来ることができなかった。						
サービス導入後の変化・効果	サービス導入直後は，1日1回の訪問を実施していたが，「どの薬を飲んでよいか分からない」，「とにかくすぐ来てほしい」などと頻繁にコールがあった。 短時間の朝夕の定期訪問を増やし，定着してくると，コール数も少なく，精神的に落ち着くようになった。						

年齢	90歳代	性別	女性	要介護度	2	認知症日常生活自立度	II b
世帯の状況	サービス付き高齢者向け住宅に入居 近くに子夫婦在住						
サービス内容・頻度	入浴介助…週2回 安否確認…日2回（夜間）						
サービス導入前の状況・課題	約1年間、介護老人保健施設に入所しており、周りの人に見守られている生活に慣れていたので、1人の生活に不安があった。 子からも環境が変わることに心配があるとの意見があった。						
サービス導入後の変化・効果	サービス導入当初は、環境の違いに不安を訴えていたが、安否確認、緊急対応が可能との説明で安心し、現在は、落ち着いて生活している。						

年齢	70歳代	性別	男性	要介護度	1	認知症日常生活自立度	II
世帯の状況	妻と2人暮らし → 妻が入院したため、子と同居						
サービス内容・頻度	安否確認、外出介助、戸締り…週2回 買い物同行…週1回 安否確認、配食弁当持参（昼）、 インスリン注射・血糖測定見守り…週3回 安否確認、配食弁当持参（夕）、 インスリン注射見守り…週5回						
サービス導入前の状況・課題	糖尿病で血糖値コントロールが必要なため入院していた。 インスリンの自己注射をすることになったが、妻が入院中のため、1人での生活が心配であり、一旦、子宅に退院した。 子の帰宅が遅いため、食事時の血糖測定や食前のインスリン注射に不安があった。						
サービス導入後の変化・効果	サービス導入後は、食事時の血糖値測定やインスリン注射が確実に行われている。 症状も安定し、在宅での生活が安心してできている。						

イ 中・重度者の事例

年齢	90 歳代	性別	女性	要介護度	5	認知症日常生活自立度	Ⅲa
世帯の状況	サービス付き高齢者向け住宅に入居 キーパーソンである子の夫が週 1 回程度で来訪する。						
サービス内容・頻度	安否確認…日 1 回 排泄介助…日 4 回 経管栄養注入…日 3 回						
サービス導入前の状況・課題	胃ろう部からの栄養漏れひどく、周囲の皮膚状態が安定しなかった。						
サービス導入後の変化・効果	連携する訪問看護事業所の看護師が日に 1 回以上訪問しており、対応方法など詳しく聞くことができ、的確なサービス提供が常時可能となった。						

年齢	80 歳代	性別	女性	要介護度	4	認知症日常生活自立度	Ⅱ b
世帯の状況	サービス付き高齢者向け住宅に夫とともに入居						
サービス内容・頻度	トイレ誘導、パット交換…日 8 回 車いす移乗、移動介助…日 3 回 入浴介助…週 2 回 生活援助（掃除、洗濯）…週 1 回						
サービス導入前の状況・課題	サービス付き高齢者向け住宅において転倒し、骨折した。術後、介護老人保健施設にてリハビリを行い、車いすが利用できるようになったため、退所し、再入居した。 もともと歩行ができていたので、車いすの生活が可能か課題であった。						
サービス導入後の変化・効果	生活の全ての面で援助が必要であるが、排泄のパターンもできてきて、規則的な生活ができるようになった。 夫と一緒に暮らしたいという願いが叶った。						

年齢	50歳代	性別	男性	要介護度	5	認知症日常生活自立度	自立
世帯の状況	高齢者アパートに1人暮らし						
サービス内容・頻度	バイタルチェック, 安否確認…朝夕毎日 掃除, 洗濯, 通所介護準備, 買い物…週2回						
サービス導入前の状況・課題	精神疾患があり, 外出したときに大量の食糧, 飲料水を購入し, 部屋に持ち込んで好きなだけ食べ, 体調を崩した。 自分の行動が制限されると, 感情的になることがあった。						
サービス導入後の変化・効果	おやつや飲料水を管理し, 朝夕の定期訪問時に渡すことで, 量と内容が把握でき, 体調も安定した。						

(7) 効果, 課題など (自由記載)

ア サービスについて

- ・ 短時間で訪問サービスを行うメリットはある (安否確認, 服薬確認などに有効)。
- ・ 1日単位での希望・要望を把握しやすくなり, それをケアプランにしっかりと盛り込むことで, 利用者や家族の安心につながっている。
- ・ 定額報酬のため, ケアマネジャーから必要以上のサービス提供を求められることがある。
- ・ 一般の住宅を訪問する際は, 距離や交通状況により, 円滑に回れないことがあり, 提供できる範囲を狭くする必要があるのでないか。
- ・ 随時対応サービスの仕方がオペレーターによって違いが生じるケースがあり, 利用者が戸惑うことがある。
- ・ 夜間, 深夜の時間帯は, 家族がいる場合, 訪問は避けてほしいというケースがある。

イ 介護報酬・利用料について

- ・ 利用者にとって経済的な負担が軽くなることもあるが, 事業所にとっては採算が合わないケースも多くなるのではないか。
- ・ あまりに医療依存度の高い方の場合, 訪問看護の訪問回数が増えると, 報酬が定額のため, 赤字になる。
- ・ 24時間随時対応してほしいという希望はあるが, 通常は, あまり訪問サービスが必要ないと考えられる利用者にとっては, 割高になってしまう。
- ・ 介護度が訪問回数の多さに直結していないケースがあるため, 利用料に不公平が生じる場合がある。
- ・ 通所介護を利用すると減算になる。

ウ 人員について

- ・ 身体介護を中心とした場合、サービス時間が朝・昼・夕の食事時に集中するため、スポット的に人員を確保する必要があるが、朝・夕の確保が難しい。
- ・ 職員配置の面で一体的に動かすことに縛りがあり、まとめるための労力がある。

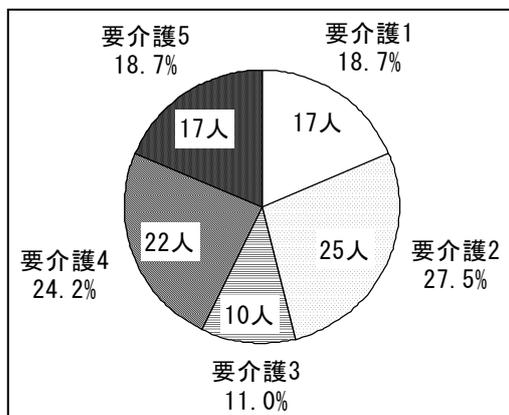
エ その他

- ・ 現在、サービス付き高齢者向け住宅内のみでサービス提供を行っているが、早く地域の方への訪問ができるよう、体制を整えたい。

5 複合型サービスについて

(1) 利用者の状況

【要介護度別の利用者数】



- 利用者数合計： 91 人
- 1事業所当たり：22.8 人
- 平均登録率：91.0%
- 平均要介護度： 3.0
- 軽度者から重度者まで、同程度の割合

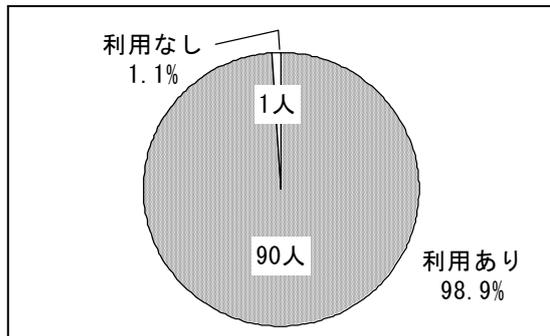
【世帯・住まい別の利用者数】

区分	1人暮らし	高齢者のみ世帯	64歳以下の家族と同居	合計
有料老人ホーム・高齢者向け住宅	18人 19.8%	3人 3.3%	3人 3.3%	24人 26.4%
上記以外	10人 11.0%	6人 6.6%	51人 56.0%	67人 73.6%
合計	28人 30.8%	9人 9.9%	54人 59.3%	91人 100.0%

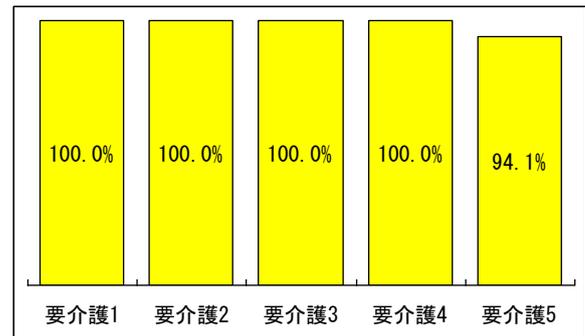
- 「64歳以下の家族と同居」が約6割と最も多く、次いで「1人暮らし」が約3割、「高齢者のみ世帯」が約1割
- 有料老人ホーム・高齢者向け住宅の入居者は、26.4%

(2) 通いサービスの状況

【利用の有無】



【介護度別の利用率】



○ ほぼ全員が通いサービスを利用

【1か月当たりの通いサービスの回数（1人当たり）】

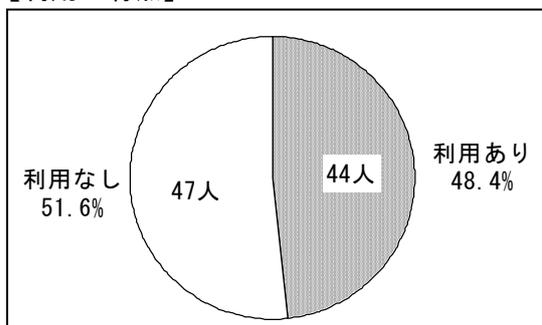
区分	全体	有料老人ホーム・高齢者向け住宅	
		有料老人ホーム・高齢者向け住宅	左記以外
要介護1	15.6回	14.3回	15.8回
要介護2	17.2回	11.0回	19.8回
要介護3	17.5回	8.5回	19.8回
要介護4	18.9回	15.6回	20.8回
要介護5	19.1回	14.3回	20.4回
全体	17.6回	13.3回	19.3回

○ 要介護度が高くなるにつれて、通い回数が増える傾向

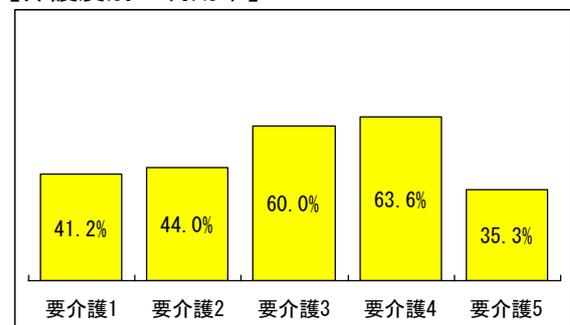
○ 有料老人ホーム・高齢者向け住宅の入居者に対しては、13.3回であり、それ以外の者に対しては、19.3回（全体では17.6回であり、1か月のうち、約半数の日で利用）。

(3) 訪問介護サービスの状況

【利用の有無】



【介護度別の利用率】



○ 約半数が訪問介護サービスを利用

○ 要介護度が高くなるにつれて、利用率が高くなる傾向であるが、要介護5では低い。

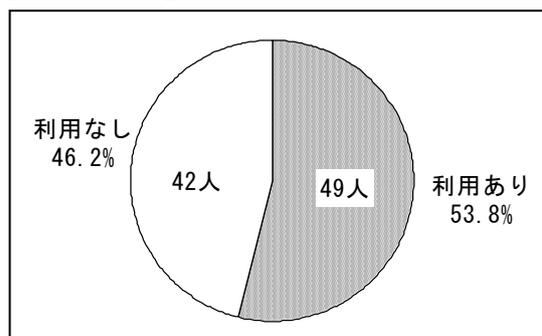
【1か月当たりの訪問介護サービスの回数（1人当たり）】

区分	全体	有料老人ホーム・高齢者向け住宅	
		有料老人ホーム・高齢者向け住宅	左記以外
要介護1	40.3回	31.7回	46.8回
要介護2	46.7回	51.7回	39.3回
要介護3	75.3回	172.0回	27.0回
要介護4	75.2回	114.0回	13.0回
要介護5	48.8回	60.8回	1.0回
全体	59.1回	82.8回	28.8回

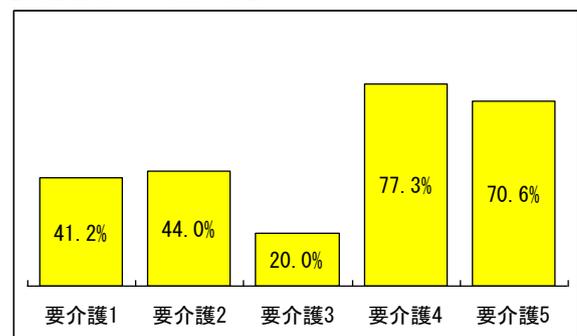
○ 有料老人ホーム・高齢者向け住宅の入居者に対しては、82.8回と多いが、それ以外の者に対しては、28.8回と少ない（全体では59.1回）。

(4) 訪問看護サービスの状況

【利用の有無】



【介護度別の利用率】



- 約半数が訪問看護サービスを利用
- 要介護3で利用率が低くなるが、要介護度が高くなるにつれて、利用率は高くなる傾向
- 特に要介護4・5の利用率が高い

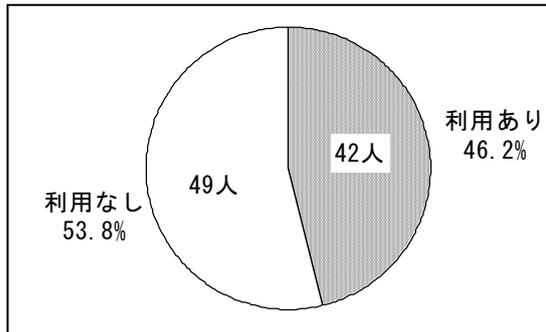
【1か月当たりの訪問看護サービスの回数（1人当たり）】

区分	全体	有料老人ホーム・高齢者向け住宅	
		有料老人ホーム・高齢者向け住宅	左記以外
要介護1	6.8回	4.5回	8.0回
要介護2	15.5回	18.0回	12.4回
要介護3	4.5回	-回	4.5回
要介護4	15.4回	27.1回	6.2回
要介護5	9.8回	21.5回	3.1回
全体	12.5回	20.7回	6.7回

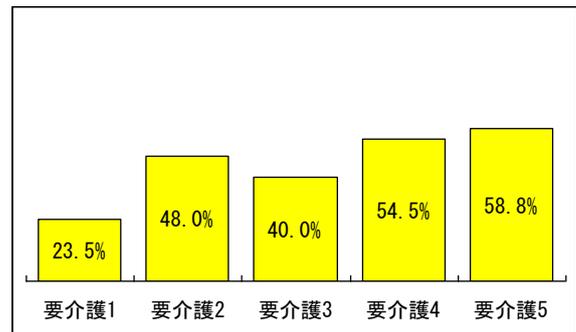
○ 有料老人ホーム・高齢者向け住宅の入居者に対しては、20.7回であり、それ以外の者に対しては、6.7回と少ない（全体では12.5回）。

(5) 宿泊サービスの状況

【利用の有無】



【介護度別の利用率】



- 約半数が宿泊サービスを利用
- 要介護度が高くなるにつれて、利用率は高くなる傾向

【1か月当たりの宿泊サービスの回数（1人あたり）】

区分	全体	有料老人ホーム・高齢者向け住宅	
		有料老人ホーム・高齢者向け住宅	左記以外
要介護1	4.0回	-回	4.0回
要介護2	8.7回	-回	8.7回
要介護3	10.3回	-回	10.3回
要介護4	9.5回	-回	9.5回
要介護5	6.8回	-回	6.8回
全体	8.2回	-回	8.2回

- 有料老人ホーム・高齢者向け住宅の入居者については、利用がなく、それ以外の者に対しては、8.2回

(6) サービスを導入し、利用者にとって特に効果があった事例  
 ア 軽・中度者の事例

年齢	70 歳代	性別	女性	要介護度	1	認知症日常生活自立度	Ⅲa
世帯の状況	1 人暮らし						
サービス内容・頻度	通いサービス…週 3 日 訪問介護サービス…週 15 回（日 1～3 回） 訪問看護サービス…週 3 回（リハビリ 2 回）						
サービス導入前の状況・課題	小規模多機能型居宅介護と訪問看護を利用していたが、両事業所間の連携不足などの問題があり、病状（血糖値）が安定せず、歩行不安定により、転倒が多かった。						
サービス導入後の変化・効果	健康管理指導のため、受診同行し、インスリン内服管理を行う。 また、転倒防止に向け、訪問看護サービス（リハビリ）の提供により、血糖値の安定と本人の精神的不安の解消を図ることができた。						

年齢	70 歳代	性別	女性	要介護度	1	認知症日常生活自立度	Ⅱa
世帯の状況	1 人暮らし						
サービス内容・頻度	通いサービス…週 4 日 訪問介護サービス…週 1 日						
サービス導入前の状況・課題	1 人暮らしのため、身の回りのことが全てにおいて支援する必要があった。						
サービス導入後の変化・効果	通いサービスと訪問サービスを組み合わせ、最初のうちは頻回に訪問していくことでリズムがつかめ、身の回りのことが自立して行えるようになった。						

年齢	80 歳代	性別	女性	要介護度	2	認知症日常生活自立度	II b
世帯の状況	高齢者向け住宅に 1 人暮らし						
サービス内容・頻度	通いサービス…週 3 日 訪問介護サービス…週 1 回 訪問看護サービス…毎日						
サービス導入前の状況・課題	1 人暮らしで生活していたが、入院する。 退院後も病状管理など不安があるが、子は遠方にて介護が困難な状況であった。						
サービス導入後の変化・効果	退院後、かかりつけ医と連携をとりながら訪問看護サービスを中心に利用し、状態の安定ができています。						

イ 中・重度者の事例

年齢	70 歳代	性別	女性	要介護度	5	認知症日常生活自立度	IV
世帯の状況	夫・子夫婦と同居						
サービス内容・頻度	通いサービス…月 25 日 宿泊サービス…月 15 日 訪問看護サービス…週 1 日						
サービス導入前の状況・課題	脳梗塞で入院後、寝たきり状態で胃ろうからの栄養摂取となる。 家族の希望としては、在宅での生活を望まれるが不安があった。						
サービス導入後の変化・効果	家族の負担を考え、通いサービスと宿泊サービスの利用を柔軟に対応し、在宅時には訪問看護サービスにて家族への指導も行い、いつでも連絡が取れるよう体制を整え、在宅生活が続けられている。						

年齢	80 歳代	性別	女性	要介護度	4	認知症日常生活自立度	Ⅱa
世帯の状況	夫、子の家族と同居						
サービス内容・頻度	通いサービス…週 5 日 宿泊サービス…週 2 日 訪問看護サービス…週 1 回（リハビリ）						
サービス導入前の状況・課題	通所介護と訪問介護を利用していたが、本人のレベル低下により、家族の負担が増えてきたことが課題であった。						
サービス導入後の変化・効果	リハビリなどにより A D L の向上を図り、表情が良くなり活気がでてきた。 サービス導入後も、入退院を繰り返しているが、介護老人保健施設などを利用せず、連続的な宿泊サービスなどを利用し、在宅復帰している。 また、家族の負担や不安の軽減も図ることができた。						

年齢	80 歳代	性別	男性	要介護度	5	認知症日常生活自立度	Ⅳ
世帯の状況	妻と子の 3 人暮らし						
サービス内容・頻度	通いサービス…週 5 日 訪問介護サービス…毎日 訪問看護サービス…通所以外の日 宿泊サービス…月 2 回程度						
サービス導入前の状況・課題	胃ろうのため、家族の介護負担が大きかった。						
サービス導入後の変化・効果	訪問看護サービスや毎日の訪問介護サービスにより、家族の負担が減少した。						

(7) 効果、課題など（自由記載）

- ・ 現状は医療ニーズの高い方より認知症で困っている方の相談が多い。
- ・ 重度化する利用者に対して通いサービスや宿泊サービスの定員を緩和してほしい。  
現状、家族の負担軽減を図ろうにも、柔軟な対応やスケジュールを組むことが難しい。  
家族あつての在宅であるので、もっと柔軟な対応ができないと、施設入所を優先される。
- ・ やむを得ない場合は、定員を超えても差し支えないとあるが、曖昧でわかりづらいので、具体例を踏まえて文章化してほしい。